

### 第3章 国際社会に生きる日本人の自覚

#### 3 儒教と日本人の思想形成

##### 1 儒教の受容（教科書 P.92～94）

###### ●現実秩序の倫理 [p.92]

儒教の伝来→憲法十七条・大化改新・律令体制

=儒教の説く仁政の実現を目指す、中世の終わりまで仏教の周辺学問

近世の儒教=出世間的な仏教→現実世界の秩序理念の要求

{ } →僧→還俗→儒者：人の道を人間関係（人倫）に求める  
↓  
仁や義を無視する仏教はまちがい

###### ●礼秩序の思想 [p93]

林羅山→{ }を幕藩体制に……湯島聖堂の学問所

①「{ }」

=すべてのもの（天地自然）には定まった{ }がある→人倫

②「{ }」=人倫の理の具体的あらわれ

→封建的身分秩序の根拠づけ

③敬={ }に則るあり方

「うやまう」でなく「つつしむ」→私利私欲を否定

④{ } =つねに心の中に敬をもつよう心がける

→理と一つであることを強調

◎人格を高貴に保とうとするきびしさは武士に深い共感をもって受け入れられる

{ } →敬のきびしい実践→塾を開き優秀な門人輩出

{ } を展開=朱子学と神道を結ぶ